

学校田んぼの活動をふいかえて ~先生方の感想~

昨年度、小山で行われた大椎小学校、あすみが丘小学校5年生の学校田んぼ活動をふいかえて、先生方から感想文をいただきましたのでご紹介します。

■大椎小学校

☆岩野 匡伸：1年間の活動を振り返り、教室の中では味わえない様々な体験をさせてくださりありがとうございました。年間を通して、稲を育てることや、脱穀、自然観察などを行ない、どれも楽しく意欲的に活動する子どもたちの姿が見られたことがとてもうれしいです。子どもたちがこれらの体験活動を通して、自然の素晴らしさ自然が与えてくれる様々な恵みに気づくことができた、それがよかったです感じています。

子どもたちは苗から稲を育てたことで、農家の大変さを感じたと同時に、お米を食べられることへのありがたみをもって、いただくようになりました。また、お米が生長する過程には、たくさんの生き物を殺めていることを知り、食べ物を粗末にはいけない思いが生まれてきました。そこから、日本の食料自給率の実態や世界の国々で飢えにより多くの方が亡くなっていることなど、「命」についてじっくりと考え自分なりの意見をだすことができました。これらを体験し、知識だけではなく実感を伴ったからこそ、今後自分たちの住む地域の自然に関心を持ったり、食べ物のことについても深く考えられるようになったりし、そして、考えたことを行動に移すことができると思います。最後になりましたが、このような素敵な時間を過ごすことができるようにYPPの方々には、計画や準備などご協力いただきありがとうございます。また、保護者の皆さまにもたくさん支援していただき、ありがとうございました。

☆上大迫 奈都子：約1年間YPPの皆さまにお世話になり、子どもたちは稲の生長だけでなく様々なことを学びました。話を聞くときの態度や、野良仕事に臨む姿勢についてなど日ごろの生活では実感できないことを経験し、大きく成長したように感じます。その中でも特に子どもたちが深く学んだと思うことが3つあります。

1つ目は稲の生長を1年間を通して学んだことです。精米を見る機会は多くあった子どもたちですが、実際に稲が生長し、自分たちの口に入るまでの様子はなかなか見ることはできません。そのため稲の姿が田んぼに行くたびに変わっていることに驚き、感動していました。2つ目は食べ物のありがたさです。脱穀の際に食料自給率のお話や日本がどれだけ食料が豊かな国なのかを教えていただきました。自分たちにできることは食べ物を残さないことだと教えていただき、その日の給食から意識して食べている姿がみられました。また、食事をするとすることは多くの命をいただいているということを知り、「いただきます」「ごちそうさまでした」という言葉の大切さを学んでいました。

3つ目は多くの方々を支えられて学習を深められたことです。田んぼ作業や自然観察では、豊かな自然に触れさまざまな知識を教えていただきました。子どもたちの振り返りカードにはその日に教えていただいたことがびっしりと書いてあり、たくさんの方にやさしく楽しく学ばせていただけたと感じました。子どもたちは6年生として学校の最高学年になります。教えていただいた自然や田んぼに関する知識、感謝の気持ちを大切にすることなどを成長の糧として学校を支える存在になってほしいです。

■あすみが丘小学校

☆池崎 靖長：あすみ田んぼの活動を通して、改めて子どもたちは貴重な体験をさせていただいたのだと感じました。特に子どもの変化で大きく思えたのは、食への意識です。一年間の活動で、米ができるまでには、多くの時間や多くの手間、多くの生き物の働き、多くの失われた命と様々なものから自分の目の前にある米がつくられていると身をもって知ることができました。食べ物がなぜ大切なのかを体で感じた一年は、子どもたちにとって一生の宝になると感じています。

また、武井先生には子どもだけでなく、私の心にも響くお話をたくさんしていただきました。一粒の米を育てるまでにどれだけの命を殺めているのか、日本の人々がムダにしまっている食料でどれだけの人々を救うことができるのかなど、私たち大人も知ってはいても意識から外してしまっていることばかりでいつも気付かされていました。特に武井先生の話で印象的だったことは、「私たちは多くの人々や自然、命によって生かされている。だから私たちは仕事をして生きている人々や自然に返していかな

ければならない。」という言葉です。私の仕事としてどのように人のために返していけるのかを改めて考えるきっかけとなりました。まずは、今年一年を通じた体験で学んだ食べ物大切さを自分自身が常に意識して、これから出会う子どもたちに伝えていくことが自分にできる仕事だと思っています。

☆**田村 貴広**：あすみが丘小学校に赴任して、初めての5年生。個人としては4回目の5年生ではありませんが、ひとつだけ未知の世界がありました。それが「あすみ田んぼ」です。今年で35歳を迎えた自分に、「人生初」という経験が待ち受けていようとは思いませんでした。

近代化が進み、多くの自然が失われていく昨今の日本社会において、子どもたちが自然と触れ合える機会は年々減少傾向にあります。加えて、子どもの安全を配慮し、山や川など、自然を生かした学習も昔のように行うことが難しくなっています。そんな中、あすみが丘小の5年生は、地域の方々の協力のもと、米作りの体験ができています。これは大変貴重な経験であり、幸せなことです。代掻き・田植えから始まった「あすみ田んぼの1年」は泥にまみれることをいやがらない活発な子どもたちと、活動を支えて下さったYPPの方々やボランティアの方々のおかげで、楽しく、充実したものとなりました。子どもたちは、自分たちで植えた稲の成長に喜びを感じながら、自然の偉大さはもちろん、命の大切さや食べ物大切さを学び、大きく成長することができました。心より感謝申し上げます。

☆**早坂 光子**：あすみ田んぼでの活動は、すべてが初めての経験でした。初めて田に足を踏み入れた時の泥の感触は未だに忘れられません。米作りと聞いて、小学生の頃に育てたバケツ稲を思い出しましたが、途中で手を加えたり、稲を刈ったりした記憶もないほどです。それに比べあすみ小の5年生は、豊かな自然に囲まれた小山の地で、一度きりの体験ではなく、一年間を通して様々な活動をさせていただくことができ、とても恵まれているなと感じます。実際に、田んぼでの活動を通して、子どもたちが苗を一本ずつ丁寧に植える真剣な姿や、泥まみれになりながら生き物とふれ合う姿など、普段学校では見ることのできない新しい表情を見ることができました。子どもたちにとってもあすみ田んぼでの活動は、時間を忘れて夢中になれる素敵な活動でした。

また、生き物の命と引き換えに、米作りが成り立っているという武井先生のお話は、どの活動を通して子どもたちの印象に残り、命の大切さや、食事ができることのありがたみを感じることができました。この経験や学びを胸にこれからの生活にいかしてほしいと思います。1年間を通してあすみ田んぼに関わったことは、貴重な経験としてこれから先も記憶に残ると思います。YPPの方をはじめ、活動に協力して下さった皆様に感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

☆**寺田 知弘**：私は今年であすみ田んぼ歴(お手伝いを含めて)5年になります。毎年感じることは、あすみ小の子どもたちが本当に恵まれているなあ、ということです。自分たちの住んでいる地域に小山のような自然が残されていること、YPPのみなさんがいて、米作りについて学べる機会があることは、他校ではできないことです。私は5年生の担任になって田んぼの学習をするたびに、このような環境があることに感謝をしなければならないということを、子どもたちに1番に伝えます。今年は4歳の自分の子どもを連れてお手伝いに行きました。わが子にもぜひ見せたい風景、体験させたい活動でした。自然の中で伸びのびと走り回るわが子を見て、改めてこの活動の意義を感じています。これからもあすみ小の5年生がお世話になります。どうぞよろしくお願いします。



上空から見た小山の谷津
奥が上流。破線で囲まれた場所が
学校田んぼ
(2016/5/2 撮影：高山)



里山たんけんレポート

第195回 下和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2016年4月3日（日）くもり

どんよりした曇り空で植物は蕾状態でひらいてくれないものがありましたが、春本番です。コブシが満開の谷津をウグイス、ホオジロの囀り、シュレーゲルアオガエルの合唱を耳に巡りました。キュウリグサの香り、オオシマザクラのクマリンの香り、シユウブの香りなど香りを楽しみました。アマナの花の咲いているところではその繁殖形態の話をお聞きしました。

気温が低くチョウはあまり飛びませんが、モンシロチョウに混じって早春の蝶、ツマキチョウが舞っていました。冬眠から覚めたナナホシテントウやルリタテハも見られました。冬鳥は去ったのか出会えませんが、オオタカが上空を舞い、田んぼからは2羽のアオサギが飛び、キジやコジュケイの音が聞こえました。カエル3種、カナヘビにも出会いました。

林内には入りませんが集合場所周辺ではフデリンドウやシュンランが咲いていました。

（参加者 大人13名、大学・高校生6名、小学生2名、幼児1名；報告：網代春男）

第189回「苗代づくり」

2016年4月2日（土）くもり

いよいよ今年の米づくりがはじまりました。ちば環境情報センターが今年も開催する米づくり講座への受講者など谷津田が初めての方も大勢参加してくれて田んぼは大変なにぎわいでした。米づくりの第一歩は苗代づくり。まず、田んぼに泥を盛り上げて苗代を作ります。泥深い田んぼを初めて経験する方は長靴がズブズブ沈み込んでなかなか歩を進められずコワゴワの様子でしたが、ベテランさんに歩き方のコツを教えてもらって少しずつ慣れ、泥の中でクワを使えるようになりました。できあがった苗代に種モミをパラパラと蒔きます。モミは事前に水に浸してすぐに芽が出るように準備してあります。蒔いたのはコシヒカリ、農林1号（イネの品種として最初に農林登録された種でいろいろな品種の祖先）、古代米の黒米、赤米、緑米です。蒔いた上から手のひらでペタペタそっと押し、モミの大きさの分、泥に埋めました。柔らかな泥の感触がとても気持ちよい作業です。最後に苗代をビニールのトンネルで覆って完成。5月の田植えに向けて苗がうまく育ってくれることを祈っています。

下和田に初めて来られた方は谷津の散策もして、田んぼやそこで暮らす生きもののお姿を観察しました。

（参加 大人29名、小中学生19名、幼児8名、報告 高山邦明、写真 田中正彦）



第128回 小山町YPP「コシヒカリ・黒米の苗代づくり」

2016年4月9日（土）晴れ

5月に植えるコシヒカリと黒米の苗代づくりをしました。まずは学校田んぼから。今年も大椎小学校、あすみ小学校の5年生がお米づくりにやってきます。学校田んぼのあぜに近いところに泥を盛って苗床を作り、コシヒカリのモミを蒔いて手のひらでペタペタ、最後に鳥よけと保温のトンネルをかけます。作業をしているとすぐ近くからシュレーゲルアオガエルのキリリ、コロロという軽やかな鳴き声が聞こえてきます。林からはウグイスの熟達したさえずりもして、春爛漫です。続いてYPPのコシヒカリ2つ、黒米1つの苗代も作りました。暖かな日差しを浴びて健やかに育ってくれることでしょう。

時間があつたので、水路の泥上げや畦の手入れ、田んぼの草取りもして、田植えに向けて少しずつ準備を進めました。

（参加 大人6名、報告 高山邦明）



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 4月 3日 ウグイスが美声を聞かせてくれる。昨年生まれのアカガエルが田んぼにいた(高山)。
4月 9日 シオヤトンボが次々羽化。シュレーゲルアオガエルが大合唱。アカガエルやヒキガエルのオタマジャクシが元気に泳ぐ(高山)。
4月30日 キセキレイのカップルが田んぼにやってきた。水路沿いでカワトンボが飛び、シオカラトンボも姿を現す。斜面縁でホタルカズラが咲く(高山)。

下大和田

- 4月 8日 ニホンカワトンボ、ゴマフカミキリが林にいた(網代)。
4月10日 フデリンドウが満開になる(網代)。
4月16日 シュレーゲルアオガエルの卵のうが畔際に見られた。ツバメが田の上を飛び回っていた(網代)。
4月19日 シオカラトンボ羽化。ウワミスザクラ満開。ホタルカズラ咲き出す(網代)。
4月26日 オオヨシキリ囀りだす(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第 190 回「田起こし」・第 191 回「田植え」(第3・4回米づくり講座)

田植えを前にコシヒカリを植える田んぼの田起こしをし、翌週、4月に作った苗代で育った苗を田んぼに植えます。コシヒカリ、赤米、黒米、緑米、農林1号と植える稲がたくさんありますので、たくさんの皆さんの参加をお待ちしています。トンボやカエルなど生きものとたくさん出会える気持ちのいい作業です。

日時: 田起こし 2016年5月7日(土)9時45分~14時

田植え 2016年5月14日(土)9時45分~14時 *いずれも小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行き)のちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、野草を食べる会は加えて、お椀・お皿・おはし

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第 197 回 下大和田 6 月の谷津田観察会とごみ拾い

仔ガエルが畔をピョンピョン跳ねている頃です。昨年は見るもの多く歩が進まない程でした。命あふれる季節です。ホトトギスの声も聴けるでしょう。

日時: 2016年6月5日(日)9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2016年5月8日(日)、5月20日(金)いずれも9時45分~15時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼第 129 回 小山町 YPP「コシヒカリ・黒米の田植え」

苗代で育ったコシヒカリと黒米の田植えをします。

日時: 2016年5月21日(土) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 千葉の農家の方々の田んぼでは田植えがほぼ終わりました。4月下旬に出張帰りの飛行機が成田に降りる直前、下に広がる景色は一面の水びたし。毎年この季節に人間がもたらす大きな環境変化。生き物たちには大騒ぎの事態ですが、その後、爆発的にたくさんの命を育むゆりかごになります。(高山 邦明)